

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①特色ある外国語教育と国際理解教育を実践し、国際的視野を持った人材を育成する。 ②「思考力・判断力・表現力」を育成する授業を目指し、授業改善を実施する。 ③基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う。	①生徒が自分の力を、さらに客観的に把握できる新たな検定試験を導入するとともに、姉妹校事業等で実践の場を積極的に提供する。 ②「主体的で深い学び」に関する理解をさらに深め、さらなる授業改善を推進し、活発な言語活動が展開される授業を実践する。 ・各教科における到達目標共有化を進める。 ③主体的に学習に取り組む態度とさらなる学習習慣の確立を図る。	①大学入学共通テストに向けた取り組みとして4技能を測定するGTECを新たに導入する。 ・姉妹校の訪問及び受入、諸外国のユネスコスクールとの交流や英語宿泊研修を通じて国際交流のための実践の場を提供する。 ②「主体的で深い学び」について研修会を行い、さらなる授業改善を推進する。 ・定期試験における問題の共通化を進める。 ③生徒のニーズに応じた課業日及び長期休業中の補習・講習を実施する。	①新たな検定試験を実施したか。 ・姉妹校との交流を深めることができたか。 ②「主体的で深い学び」について職員・生徒の理解が深まり、授業改善が図れたか。 ・学年末試験各科目で問題の7割共通化が実現できたか。 ③生徒のニーズに応じた補習・講習を実施することができたか。
2	生徒指導・支援	①部活動の活性化を進める。 ②交通安全指導を通してマナーの向上と事故防止に取り組む。 ③人権尊重の精神を養う。 ④生徒の個に応じた教育相談体制を確立する。	①新たな方針の下で、計画的に、積極的な部活動が展開されるように指導体制を整え、予算・活動場所の支援を行う。 ②自転車乗車ルール徹底を図り、事故防止を目指した交通安全指導をより充実させる。 ③いじめ等の生徒間のトラブル防止の指導に重点をおき、生徒一人ひとりが、のびのびと安心して学校生活を送れるように努める。 ④職員の気づきの力や対応力を高め、協働支援体制によって情報を迅速に共有するとともに関係機関と連携し適切な支援が行えるよう努める。	①人間関係を良好に保てるように活動計画及び指導方針を生徒・保護者に示し、適切な休養日設定や安全に留意して、主体的な活動の実現を目指す。また、生徒への積極的な呼びかけを行い、入部率を高める。 ②1、2年の交通安全教室及び、年5回の通学路安全指導を実施し、危険な交差点等を安全に通過できるよう指導を徹底する。 ③いじめアンケートや面談週間を通じて、実態をつかみ、早目の対応を行う。 ④月1回のミニ研修で不登校対応等について全職員の共通理解を図る。また、スクールカウンセラーとの連携に加え、年2回の要請訪問相談を実施し、必要な関係機関につなぐ。	①部活動の加入率が高まり、休養日等、適切な活動計画の下で生徒主体の積極的な活動ができたか。 ②乗車マナーの向上を図り、交通事故や苦情を減らすことができたか。 ③いじめやSNSトラブルをなくす取組や適切な対応、授業規律を高めることができたか。 ④特別支援や不登校対応についての基礎的な知識を身につけ共通理解が図れたか。 ・必要な関係機関と連携し、生徒および保護者に適切な支援ができたか。
3	進路指導・支援	①一般受験の比率を上げるなど、生徒がより高いレベルを目指して第一志望を設定し、進路実現を果たすことができるよう支援する。 ②一人ひとりの希望に合った支援を行うために、相談体制の充実を図る。	①一般受験に対応できる学力を身につけさせるための支援体制確立とともに、生徒の適性にあわせてAO入試、各種推薦等の制度を活用して、進路希望の実現を支援する。 ②面談等を通じて生徒の希望を確認するとともに、保護者とも情報共有できる機会を設定する。 ・大学入学者選抜制度変更に向けて新たな調査書様式への対応を検討する。	①校外模試への積極的な参加を促す。 ・模試実施後に、外部機関と連携し、結果報告会を実施して生徒の学力を把握するとともに、進路指導に有効活用する。 ・外部機関と連携して、生徒の進路実現に向けて意識の向上を図る。 ②個人面談と保護者面談を実施するとともに、各種説明会を保護者にも開放して、情報提供を行う。 ・調査書の新様式への記載内容について情報収集、研究を進める。	①第一希望合格者の比率が5割を超えたか。 ・報告会や説明会が適切な時期に実施できたか。 ・見学会、外部講師の講演は生徒にとって有効な手立てであったか。 ②個人面談2回、保護者面談1回を実施できたか。 ・各種説明会で保護者参加はあったか。 ・新様式への対応の大枠が整ったか。
4	地域等との協働	①HPを活用して学校行事など本校の教育活動を地域に広報し、理解を深めてもらうとともに地域に貢献できる本校の役割を研究する。 ②海老名市や地元自治会などと連携し、災害への備え・対応を徹底する。	①HPの情報更新の重要性について職員に周知するとともに、迅速に処理を行う。 ・これまでの地域連携を踏まえ、本校にふさわしいコミュニティ・スクールとしての活動を展開する。 ②防災意識とともに、「いのちの大切さ」、「自助・共助」の意識を高める。	①地域が求める情報を提供する。 ・広報活動を強化し、迅速に最新の情報を提供する。 ・積極的に地域の小中学校等との交流機会を設定して、生徒一人ひとりが地域社会の一員として、充実感を得られる機会を増やす。 ②各種訓練を通じて防災意識を高めるとともに、海老名市とも連携して防災訓練を実施する。	①発信する情報を、行事の後2週間以内に発信できたか。 ・月1回以上新情報に更新できたか。 ・地域の教育機関等との連携ができたか。 ②生徒の防災意識を高め、地域と連携した防災訓練を実施できたか。
5	学校管理 学校運営	①IT環境の整備改善を推進する。 ②個人情報及び行政文書の適切な管理を推進する。 ③学びを支え、快適で安心・安全な教育環境の整備に努めるとともに、事故・不祥事防止の徹底を図る。	①ICTをさらに活用した授業ができる環境整備を行う。 ②個人情報の対策重要度分類表及び行政文書管理規則に則った適切な文書管理を実施する。 ③生徒が安全かつ快適に学校生活を送ることができる校内環境を整備する。 ・情報管理や財務関係の事故防止、安全管理を徹底する。 ・調査書等の発出文書のミス根絶する。 ・引き続き入試選抜業務に係る事故のゼロを目指す。	①校内研修会を通じてタブレット等を活用した授業方法を紹介して周知するとともに、利用しやすい管理体制を整える。 ②個人情報の取扱について理解を徹底するとともに、管理簿や持ち出し許可願などで管理を徹底する。 ・起案文書等の適切なファイリングや施錠管理、および文書の引継ぎを徹底する。 ③校内各箇所を再点検し、必要に応じて安全対策を講じ、快適な学習・生活環境の維持に取り組む。 ・美化委員会の活動を活性化し、清掃の行き届いた学校を目指す。 ・業務全般において、「確認・点検」を徹底し、事故・不祥事のない校務運営に努める。	①ICTの活用方法を周知し、利用率が高まったか。 ②個人情報の紛失など不適切な事案がなかったか。 ・各グループの起案などの行政文書が適切に管理され、利用され、次担当へ引き継がれたか。 ③生徒への安全対策が適切であったか。 ・月1回の清掃美化点検ができたか。 ・事故防止の観点に立って、県費・私費や個人情報適切に取り扱えたか。 ・発出文書にミスはなかったか。 ・入試選抜業務事故はなかったか。